

教育心理学教室教官の研究状況報告

食障害の女性との2年間の面接過程. 日本心理臨床学会第10回大会. 京都大学. 1991.

研修会講師: 不登校児のカウンセリング. 日本カウンセリング学会第25回大会研修会. 広島大学総合科学部. 1992.

研修会講師: カウンセリングの技法を学ぶ—5. 来談者中心カウンセリングの技法. チーム医療. 5-1~5-11頁. 1992.

3. 学生期・青年期心理, 学生相談・グループアプローチ

〔論文他〕

外国の学生相談——特にUCLAの場合. 全国学生相談研究会議編『キャンパス・カウンセリング』(キャンパス・カウンセリング シリーズ1. 『現代のエスプリ』第293号), 98-110頁, 1991.

座談会: 司会「いわゆる重篤な学生への援助」(加藤雄一・村上英治・土川隆史・鶴田和美・森田美弥子出席). 全国学生相談研究会議編『キャンパスでの心理臨床』(キャンパス・カウンセリング シリーズ4. 『現代のエスプリ』第296号), 5-30頁, 1992.

自己発見のための合宿セミナー(人間関係体験セミナー)の報告(1991年度)(伊藤義美・鶴田和美・森田美弥子と共同). 名古屋大学学生相談室紀要, 44-48頁, 1991.

エッセイ: 全国学生相談研究会議の先達を偲ぶ: 倉石精一先生. 全国学生相談研究会議編『キャンパスでの心理臨床』(キャンパス・カウンセリング シリーズ4. 『現代のエスプリ』第296号), 176-178頁, 1992.

エッセイ: シリーズ「出会い」第1回. 「私と映画」名古屋大学学生相談室報, 第22号, 8頁, 1991.

〔口頭発表〕

Student Psychological Services in UCLA. 第24回全国学生相談研究会議東京シンポジウム報告書. 東京農工大学. 36-39頁, 1991.

アメリカのUCLAにおける学生相談. 東海心理学会第40回大会発表論文集. 名古屋女子大学文学部, 57頁, 1991.

4. 教育臨床, 教育的人間関係

「登校拒否の態様別指導方法の在り方に関する研究」平成元・2・3年度文部省科学研究費による研究報告書(総合研究A), 代表者千葉大学教育学部坂本昇一教授に研究分担者として参加. 1992.

5. その他

書評: 水島恵一著『人間学への道——私の探求過程』(人間性心理学大系第10巻)大日本図書, 1989. 『人間性心理山研究』所収, 第8号, 125-126頁, 1990.

辞典項目: 自己一致, 多重人格, 感情移入. 三宅和夫・北尾倫彦・小嶋秀夫編, 『教育心理学小辞典』, 有斐閣, 50, 130, 221頁, 1991.

気になる性格13項目. 『別冊PHP』6月号, 特集子ども気になる性格, 伸ばしたい性格. 29-45頁, 1991.

以上
(平成4年8月31日記)

研 究 報 告

本 城 秀 次

1988年の研究報告を行って以来研究報告を怠っていたので, 今回は1989年から1991年までの研究報告を行います。

この間, 引き続き児童, 青年期の精神医学的問題, とりわけ, 登校拒否, 家庭内暴力の問題について臨床的研究を行ってきました。また, 児童期の抑うつに対しても関心を持ち, 若干の調査研究を共同で行いました。さらに, 乳幼児期の精神医学的問題にも治療的に関与し, かつ, 乳幼児医学・心理学研究会の設立に参画し, 現在事務局を引き受けています。

この間に発表した著書, 論文は以下の通りです。

分担執筆

- 1) 若林慎一郎編: 児童青年精神科——現代社会の病理と臨床——. 金剛出版, 1989.
- 2) 安藤春彦, 山崎晃資編: 小児精神科治療ハンドブック. 南山堂, 1989.
- 3) 蜂矢英彦, 南雲与志郎編: 精神保健実践講座2 精神保健と精神科医療. 中央法規出版, 1989.
- 4) 大原健士郎, 高橋三郎編: 現代の精神医学 改訂第2版. 金原出版, 1990.
- 5) 若林慎一郎編: 保育講座23 精神保健. ミネルヴァ書房, 1990.

- 6) 田浦武雄, 潮木守一, 日比 裕: 現代教育の原理. 名古屋大学出版会, 1990.
- 7) 梅垣 弘編: 医師のための登校拒否119番. ヒューマンティワイ, 1990.
- 8) 山下文雄編: 小児科MOOK No. 60 子どもの心の問題. 金原出版, 1991.
- 9) 「新保母養成講座」編纂委員会編: 新・保母養成講座第4巻 精神衛生. 全国社会福祉協議会, 1991.
- 10) 松井 豊, 林もも子, 井上果子, 沢崎達夫, 増茂尚志, 賀陽濟: 臨床心理リーディングガイド. サイエンス社, 1991.
- 11) 安藤春彦, 熊代永, 中根允文: 小児精神医学. ヒューマンティワイ, 1991.
- 論文
- 1) 若林慎一郎, 藤川明彦, 江口 研, 水谷秀子, 大野智裕, 森崎郁夫, 吉崎 剛, 星 融, 本城秀次: 心理的・社会的要因の関与した児童思春期病態についての疫学的研究——(その2) 精神科外来における児童・思春期患者の実態. 児童・思春期精神障害の成因及び治療に関する研究, 昭和63年度研究報告書, p. 27-39, 1989.
- 2) 本城秀次: 登校拒否に伴う家庭内暴力の治療. 精神科治療学, 4 ; 699-707, 1989.
- 3) Shuji Honjo, Chiaki Hirano, Satomi Murase, Toshiko Kaneko, Toshiro Sugiyama, Kazunori Ohtaka, Takashi Aoyama, Yoichi Takei, Kayo Inoko, Shinichiro Wakabayashi: Obsessive-compulsive symptoms in childhood and adolescence. Acta Psychiatrica Scandinavica, 80 ; 83-91, 1989.
- 4) 久保田さち, 本城秀次, 安田魔子: 幼児期に虐待を受けた一児童のロールシャッハ・テスト. ロールシャッハ研究, 31 ; 111-122, 1989.
- 5) 本城秀次・観音林恵子: 9歳で摂食障害を呈した女児症例について——anorexia nervosa および depression の視点から——. 児童青年精神医学とその近接領域, 30 ; 343-354, 1989.
- 6) 若林慎一郎, 江口 研, 水谷秀子, 藤川明彦, 小出浩之, 清水章子, 本城秀次: 心理・社会的要因の関与した児童思春期病態についての疫学的研究——(その3) 精神科外来における児童・思春期患者の実態. 児童・思春期精神障害の成因及び治療に関する研究, 平成元年度研究報告書, p. 5-20, 1990.
- 7) 本城秀次: 登校拒否, 家庭内暴力の病前性格と治療関係. 精神科治療学, 5 ; 1143-1153, 1990.
- 8) 辻井正次, 幸 順子, 本城秀次: CDIによる児童期の抑うつ状態に関する研究——心理相談ケースを対象として——. 発達の心理学と医学, 1 ; 387-394, 1990.
- 9) 武井陽一, 本城秀次, 平野千晶, 相羽紅美, 杉山登志郎, 金子寿子, 村瀬聡美, 大高一則, 青山 隆, 猪子香代, 若林慎一郎: 若年発症の anorexia nervosa 及びその近縁症例の臨床的特徴について. 発達の心理学と医学, 1 ; 403-411, 1990.
- 10) 辻井正次, 幸 順子, 本城秀次: 児童・思春期の抑うつ状態に関する研究——健常児童を対象として——. 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 37 ; 129-139, 1990.
- 11) 若林慎一郎, 小出浩之, 高岡 健, 江口 研, 水谷秀子, 植木啓文, 本城秀次, 杉山登志郎, 平野千晶: うつ状態の臨床(その1). 児童・思春期における行動・情緒障害の成因と病態に関する研究, 平成2年度研究報告書, P. 3-12, 1991.
- 12) 幸 順子, 辻井正次, 本城秀次: CDIによる児童期の抑うつ状態に関する研究 II——情緒障害児短期治療施設入所児童の行動評定との関連について——. 小児の精神と神経, 31 ; 113-121, 1991.
- 13) 本城秀次: 児童・青年期の精神障害と発症年齢. 精神科診断学, 2 ; 331-348, 1991.

研究経過報告(1992年9月まで)

野 口 裕 之

名大に来て5年目になる。にもかかわらず、この欄に登場するのは2回目である。この前に東京・名古屋が“最速のひかり323号で1時間49分”と書いたが、今では最速ののぞみ303号で1時間36分”になっている。さ

らに、JR東日本のSTAR21計画やJR西日本のWIN350など時速300kmは当たり前となり、技術の進歩には著しいものがある。それに比べて、私自身の進歩ははなはだ微々たるものである。それでもどう風吹き回し